この橋の向こう側

――コロナ禍を振り返りハンセン病問題を考える――

令和8年2月14日(土) 13:00−16:30(開場12:00)

山陽新聞さん太ホール 岡山市北区柳町2-1-1（定員280名）

入場無料（事前登録制）

主催:公益財団法人邑久光明園友愛会

共催:国立療養所邑久光明園、国立療養所長島愛生園、国立療養所邑久光明園入所者自治会、国立療養所長島愛生園入所者自治会

後援:全国ハンセン病療養所入所者協議会、岡山県、瀬戸内市、山陽新聞社、RSK山陽放送

同時開催――邑久光明園コレクション展I:風と海のなか

令和8年2月10日(火)−14日(土) 11:00−18:00

さん太ギャラリー（さん太ホール内）

シンポジウム開催にあたって——— 感染症の発生とそれに伴う人権侵害はこれまでも繰り返されてきました。ハンセン病回復者及びその家族に対する偏見や差別は今なお存在しており、その解決のために様々な分野で取り組みが進められていますが、果たしてどのような問題が今なお生じているのでしょうか。数年前には、新型コロナウイルスが蔓延しました。その時、感染者やその家族、最前線で感染者の対応にあたっていた保健医療関係者に対し、私達はどのように行動し、どのような感情を抱いていたでしょうか。そして、その行動や感情はこれから先、二度と私達に起きないものでしょうか。このシンポジウムでは、コロナ禍を人権の観点から振り返りながら、ハンセン病問題との共通点、相違点を見いだし、ハンセン病問題を改めて考えるとともに、二度と同じ過ちを繰り返さないために私達はどうすればいいのかを考えます。

———シンポジウムプログラム———

主催者あいさつ
石田 裕（公益財団法人邑久光明園友愛会理事長、元国立療養所邑久光明園園長）

開会の言葉
青木 美憲（国立療養所邑久光明園園長）

1.コロナ禍で起きたこと（40分）
コロナ禍では、様々な偏見、差別が起きました。その根源にあるものはどこからやってきたものでしょうか。ハンセン病問題を手がかかりに、行政、報道、文化芸術、それぞれの視点で考えます。
片岡 穣（さいたま市保健所参事（兼）感染症対策課長）
戸田 ひかる（映画監督、プロデューサー）
後藤 泉稀（山陽新聞社記者）

2.橋の向こう側にあったもの（40分）
邑久長島大橋が架橋されてから何が変わったのか、何が変わっていないのかを振り返り、これから私達ができることを考えます。
山本 英郎（邑久光明園入所者自治会副会長、元邑久光明園入所者自治会会長（架橋当時）
服部 靖（裳掛地区コミュニティ協議会会長）
テーマ1のシンポジスト

3.ハンセン病回復者と家族が語ること（90分）
今なお、差別や偏見と向き合っている方々の声を聞きます。
中尾 伸治（長島愛生園入所者自治会会長）
邑久光明園入所者
ハンセン病回復者家族

4.これからの私達へ（40分）
各テーマのシンポジスト

—閉会の言葉—
屋 猛司（全国ハンセン病療養所入所者協議会会長、邑久光明園入所者自治会会長）

ナビゲーター：中江 有里

俳優、作家、歌手。89年芸能界デビュー。数多くのTVドラマ、映画に出演。2002年「納豆ウドン」で第23回「NHK大阪ラジオドラマ脚本懸賞」で最高賞受賞。NHKBS2『週刊ブックレビュー』で長年司会を務めた。ハンセン病を患っていた北條民雄の代表作「いのちの初夜」を通じてハンセン病を知る。

司会：RSK山陽放送アナウンサー　一坪 花音

ハンセン病問題について——— ハンセン病は感染症の一つですが、うつることはまれである一方、症状が見た目に現れやすいことから、古くから嫌悪されがちな疾患でした。わが国では疾患の根絶を目標に徹底した隔離政策が行われた結果、偏見差別が作出・助長され、患者・回復者のほとんどが生涯にわたる隔離生活を余儀なくされました。患者・回復者による長年の運動により、国の隔離政策は誤りであったことが明らかとなりましたが、患者・回復者や家族が受けた人生全般にわたる被害の回復には数多くの課題が残されています。

表紙について——— 1988年5月9日に開通した邑久長島大橋を、長島側から本土側に渡る入所者を写真に収めたものです。この橋は「強制隔離を必要としない証」として「人間回復の橋」と呼ばれています。本土から島までの距離はわずか30m足らずでしたが、海と偏見と差別に隔てられ、社会から置き去りにされた入所者にとって本土は手の届かない遠い世界でした。
写真：崔 南龍《チェ・ナムヨン》（1988年）

同時開催 ——— 邑久光明園コレクション展I:風と海のなか
令和8年2月10日（火）—14日（土）　11:00–18:00
さん太ギャラリー（さん太ホール内）
本展は、邑久光明園で暮らし、あるいは暮らしていた人々による作品を通して、邑久光明園という場所を視覚的なイメージから捉え直す展覧会です。言葉や歴史の説明だけにとどまらず、写真、絵画、陶芸等を通して、邑久光明園での生活や、姿に触れる場をつくります。展覧会タイトル「風と海のなか」は、邑久光明園入所者自治会が発行していた書籍の題名に由来しています。風と海に囲まれた療養所という環境を表すこの言葉は、邑久光明園という場所のあり方を象徴するものです。

問い合わせ先——— 公益財団法人邑久光明園友愛会
岡山県瀬戸内市邑久町虫明6253
（国立療養所邑久光明園内）
TEL：0869-25-2374（内線2243または3244
受付時間：月曜～金曜（祝日除く）9:00–17:00
MAIL：yuuaikai.20130321@gmail.com

予約フォーム
参加申し込みはこちらから

会場には駐車場がありませんので公共交通機関をご利用ください。